

昭和62年度Lisp技術動向調査事業計画の概要(案)

(社)日本電子工業振興協会

人工知能(AI)や記号処理等の研究、開発に大きな役割を果しているLisp言語については、応用範囲の拡大とともにニーズはますます多様化し、その研究開発が重要なものとなっている。

このため、当協会では、Lisp技術調査委員会(仮称)を設置し、Lisp言語に関し、その応用技術、処理系技術等の技術動向を把握し、今後の適応等について調査研究を実施する。

1. 主な調査項目

(1) 応用技術の調査

- ・ 応用プログラミング
- ・ 教育
- ・ ユーザニーズ
- ・ 現状調査
- ・ その他

bboard.
subset
object
langä.

(2) 処理系技術の調査

- ・ フルセットの動向
- ・ サブセットの動向
- ・ その他

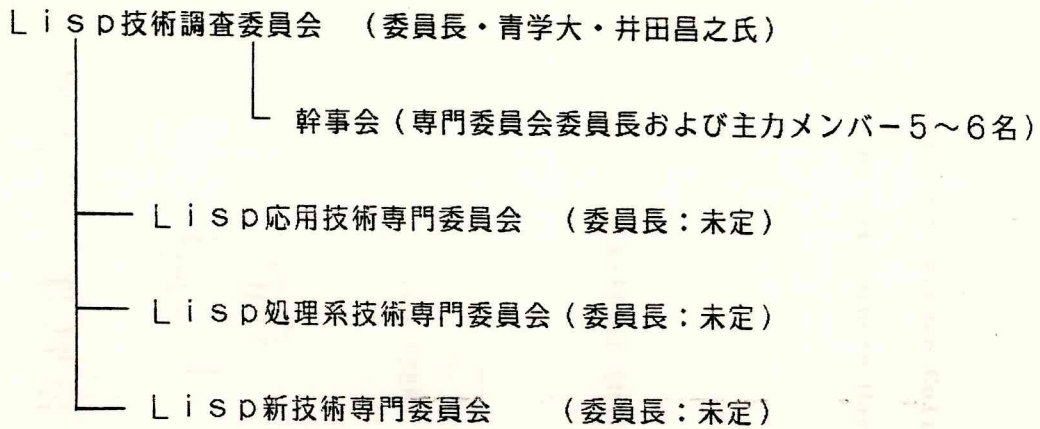
ANSI 3000 調査
70年代後半の技術

(3) 新技術の調査

- ・ オブジェクト指向
- ・ 漢字
- ・ グラフィックス
- ・ ウィンドウ
- ・ その他

テストセット

2. 調査組織



- ・ 各専門委員会の定員は、15名程度が適当。
- ・ 参加各社は、必らず何れかの専門委員会に入会すること。ただし、空きがあれば、複数の専門委員会に入会可能。

3. 予算

総額 6,000,000円（予定）

- ・ 1社あたりの負担金は、200,000円で参画会社は、30社を予定。
- ・ 主な費用は、つぎのとおり。

学識経験者への委員手当、旅費、講師謝金、資料購入費、印刷費
通信費、会議費等

以上